



日本統計学会 会報 2014.4.30

No.
159

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(公財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任— 鎌倉 稔成 (理事長) / 西郷 浩 (庶務理事)
竹内 恵行 (広報理事) / 西埜 晴久 (広報委員)
入戸野 健 (広報委員)
振替口座— 00110-3-743886
銀行口座— みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1. 巻頭随筆…………… 浜砂敬郎… 1 | 7. 第2回通常理事会・委員会報告…………… 13 |
| 2. 2014年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第二報)
…………… 山田剛史・大森裕浩・西郷 浩… 3 | 8. 臨時社員総会報告…………… 15 |
| 3. 第8回日本統計学会春季集会の報告
… 鎌倉稔成・宿久 洋・足立浩平・村上秀俊… 8 | 9. 修士論文・博士論文の紹介…………… 19 |
| 4. 「Springer 出版計画」について …… 国友直人… 9 | 10. 新刊紹介…………… 23 |
| 5. 2013年統計検定の成績優秀者…………… 鎌倉稔成… 10 | 11. 公募情報…………… 23 |
| 6. 統計検定(2013年11月17日実施)合格者の声
…………… 国友直人… 11 | 12. 会報 No.158における誤植のお詫びと訂正 …… 23 |
| | 13. 学会事務局から…………… 24 |
| | 14. 投稿のお願い…………… 24 |

1. 巻頭随筆：センサス革命と国連・欧州経済委員会の登録簿統計研修講座

浜砂 敬郎 (九州大学名誉教授)

私は2010年代より、夏をフランクフルト大学で過ごし、その成り行きが世界的に注目されてきている統計登録簿 (Statistical Register) 型の2011年人口センサスの進展状況について、調査研究を行っている。1980年代から、私は、同大学をドイツ統計の研究拠点と定め、近年は、辞書や基本文献、PC 用機器、さらには生活必需器具などを預けている。同市には連邦図書館が、隣接のヴィスバーデン市には連邦統計局があることが、その決定的な理由である。E-mail や電話による情報交換と直接的なヒアリング (J.Szenzenstein 人口統計課長) が、冷涼な夏の気候と相まって、複合的な構造を内包する統計登録簿の調査研究の大きな助けとなっている。

周知のように、欧米の先進主要国において、センサス革命という表現に形容されるような統計システムの改編が世界的に進展している。センサス

改編の基本的な方向は、調査員による全数調査に代わって、行政登録簿 (administrative register or record) を主要なデータソースとする統計登録簿が統計システムの基礎に導入されつつあることである。統計登録簿が基本的に政府の統計体系に中核に定着しつつある北欧諸国の統計システムは、中欧諸国、さらには大陸欧州諸国の統計システムに、全体的にあるいは部分的に導入が開始されている。

英米両国に目を向けると、前者では、すでに企業統計登録簿が策定され、2021年の人口・住宅センサスは、統計登録簿型センサスとなることが決定されている。またアメリカでは、経済センサスの小企業部分が行政登録簿によって補完され、人口・住宅センサスもその調査対象者表である地理的な住所システムが郵便ファイルや国土測量局の地理情報システムによって作成されている。

さらに、近年、わが国でも、国勢調査の未回答者にたいする住民登録簿による補記が本格的に導入され、経済センサスの母集団リストを商業登記簿や税務データによって補完する作業が進められている。

統計登録簿と政府省庁の行政登録簿が深く関係しているために、登録簿統計（Register Statistics）の研究では、国際的な動向を把握するとともに、各国の個性的な行政登録簿を深く考察する必要がある。私が、西村善博（大分大学経済学部）とともに、翻訳を進めている S. ヴェイル（S. Vale：国連欧州経済委員会）編著『政府統計のための行政的なデータソースと第2次的なデータソースの利用—原則と実務にかんするハンドブック—』（“Using of administrative and secondary source for official Statistics”）は、同委員会が、2011年に、世界各国の政府統計関係者にたいして開催した登録簿統計にかんするセミナーの講義と討論を集成した実務的なテキストである。本書の国連版には、同委員会刊と書かれ、編著者が明記されていないが、ヴェイル氏が、セミナーの組織者と指導者、講義（8名の講師）テキストの編成者、および Wiki 版（2013年1月）の作成者であること、さらには、私たちが同氏から、翻訳・刊行の許可を得て、貴重な追加情報を頂いたことから、同氏を編著者としている。

セミナーは、2001年から10回ほど開催されてきているが、これまで、わが国にはほとんど紹介されてきていない。私も、昨年8月にドイツ内外の統計局関係者のレポートや資料に多く引用されていることから、本書の存在を知り、帰国の機中で、好物のワインやブランデーを頂かないで、読み通したほど「新鮮さ」な感触を得た。2011年のセミナーは、同年6月6～9日にフランス Libourne 市の CEFIL-Centre de Formation de L'INSEE において開かれ、世界各国からの参加者は、200名を超えている（日本からは出席者なし）。セミナーの概要と雰囲気を伝えるために、セミナー冒頭におけるヴェイル氏のガイダンスと講義において使用された、スライドを紹介する。

（スライド2：プログラム）第1日目

09.00－10.00：はじめに—課程の概略—

10.00－12.30：行政的なデータソース—定義、利点と精度の考察—

14.00－15.30：行政的なデータの取得と利用のための体制

15.45－17.30：フィンランドと欧州連合地中海諸国の統計システムの発展にかんする技術協力プロジェクト

（スライド3）第2日目

09.00－10.30：共通の問題と解決策

10.45－12.30：共通の問題と解決策

14.00－15.30：参加国からの講演

15.45－17.30：参加国からの講演

（スライド4）第3日目

09.00－10.45：照合入門

11.00－12.30：参加国からの講演

14.00－15.45：統計登録簿における行政的なデータソース

16.00－17.30：参加国からの講演

（スライド5）第4日目

9.00－10.30：事例研究—フィンランドにおける行政的なデータソースの利用

10.45－12.30：事例研究—同上（続き）

14.00－15.00：行政的なデータソースにかんする国際的な研究

15.00－15.30：質疑応答

15.45－17.00：閉会、感想と評価

（スライド6）概説・課程の構成

- ・講演と事例研究—課程指導者と参加者

- ・グループ演習と討論—オレンジ色画面についての「警戒」

- ・質問時間—不明な点があれば、尋ねて下さい。

（スライド7）課程（その1）統計目的のための行政的なデータソースの利用

講師：S. ヴェイル

（スライド8）行政的なデータソースとは何か

（以下、スライド8～50は、本書の第1章、第2章および第5章のレジメなので翻訳参照のこと。）

つぎに、本書の章別編成を示しておこう。

第1章 行政的なデータソースと第2次的なデータソースとは何か？

第2章 行政的なデータソースを利用する利点

第3章 行政的なデータソースを利用するための体制

第4章 一般的な問題と解決策

第5章 精度と行政的なデータ

第6章 データの連結と照合

第7章 統計登録簿における行政的なデータの利用

第8章 統計調査を補完するための行政的なデータの利用

第9章 登録簿にもとづく統計システムに向けて

章題から伺われるように、本書では、登録簿統

計にかんする基本的な課題や問題点が系統的に論述されており、序文に本書の目的は、統計登録型の統計システムを構築した国と、この方途の考慮・開始国間の「相当に大きい落差」を埋めることであると述べられている。上述の章別編成と各章における事例の紹介（イギリス企業統計登録簿や全国スーパーチェーンのテスコ（Tesco）の顧客カードのデータ例やデータ連結の「演習問題」）、さらには豊富な関連文献の紹介によって、「指導的統計家による登録簿統計の国際的な「中間総括」となっている。

翻訳は、『経済学研究』（九大）第80巻5・6合併号と第81巻第1号（それぞれ2014年3月と2014年5月、

<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/1018>

にてアクセス可能）に掲載される。

2. 2014年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

2014年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 山田剛史（岡山大学）

実行委員会委員長 大森裕浩（東京大学）

プログラム委員会委員長 西郷 浩（早稲田大学）

今回で13回目になる2014年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会も統計関連学会連合に属する全ての学会の共催により開催する運びとなりました。東京大学本郷キャンパスが大会会場となっております。本大会の第1日目（9月13日（土））はチュートリアルセッションと市民講演会を開催いたします。一般講演などは2日目以降（9月14日（日）～16日（火））に開催します。懇親会は、本郷キャンパス内の山上会館を会場として予定しております。例年と異なり、土曜日開始となる点にご注意ください。

この第二報では、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション、コンペティションセッションなどの概要を項目ごとにご紹介いたします。今後、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2014/>

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので、ご覧ください。

1. 大会日程、開催場所、各種受け付け期間

開催日程：9月13日（土）から16日（火）までの4日間

9月13日（土）：チュートリアルセッションと市民講演会（東京大学本郷キャンパス）

9月14日（日）～16日（火）：本大会（東京大学本郷キャンパス）

共催：応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会

懇親会：9月15日（月）18：00～（予定） 山上会館（本郷キャンパス）

講演申し込み：5月8日（木）9：00～

6月5日（木）17：00

原稿提出：6月10日（火）9：00～

7月8日（火）17：00

事前参加申し込み：7月17日（木）9：00～

8月20日（水）17：00

2. 講演の申し込み

講演には次の種類があります。

- ・一般講演
- ・企画セッション講演
- ・コンペティション講演

申し込み方法は、すべての講演に共通の事項と種類ごとに異なる事項があります。ご注意ください。

(1) すべての講演に共通の事項

講演をご希望の方は、上記ウェブページからお申し込みください。これ以外の申し込み方法はありません。ウェブページ上で、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」のいずれかを選択してください。原則として、講演者が申し込んでください。ただし、「企画セッション講演」については、オーガナイザーが申し込んでください。

(2) 「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申し込みください。ウェブページ上の講演申し込み手順にしたがって申し込みをしてください。プログラム編成の際の参考にしますので、最大3個までのキーワードを、重視する順にご選択ください。また、講演者（連名講演者を含む）のうち、少なくとも1名は共催6学会のいずれかの会員であることが要件です。

(3) 「企画セッション講演」に関わる事項

各セッションのオーガナイザーが、セッション内の講演全件をお申し込みください。たとえば、セッション内に5件の報告がある場合、それぞれ

の報告を1つずつ、計5件をオーガナイザーがお申し込みください。これによって、当該の企画セッション内のおおの講演の原稿が1件の報告として報告集に掲載されることになります。その点にご注意ください。

(4) 「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で12回目を迎えます。参加資格は、以下のいずれかの条件を満たす方です。

(a) 2014年4月1日時点で30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生をふくむ）

(b) 講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢は問いません）

連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方で、講演の申し込み時点で共催6学会のいずれかの会員である必要があります（ただし、申し込みと同時に入会手続きする方もふくみます）。審査は、数名の審査委員による5段階評価にもとづく投票で実施する予定です。選考はプログラム委員会で行います。審査では、研究内容とともに、研究発表のプレゼンテーションについても評価します。発表者が十分に準備・工夫し、充実したプレゼンテーションであることを期待しています。原則として、最優秀報告者1名、優秀報告者3名程度を選考します。コンペティションセッションは9月14日・9月15日に開催し、9月15日の夕刻（懇親会の前）に表彰式を行う予定です。

3. 講演報告集用原稿の提出

(1) 「一般セッション講演」、「コンペティション講演」に関わる事項

報告集用の原稿はA4サイズで1ページです。インターネット経由で電子ファイル（PDF形式）を提出していただきます。「1. 大会日程、開催場所、各種受け付け期間」を参照の上、原稿提出期間を厳守してください。

(2) 「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザーが集約してご提出ください。書式・提出期間等は、上記(1)と同じです。セッション内のすべての講演について1つずつ別々にオーガナイザーが原稿を提出してください(「2. 講演の申し込み(3)「企画セッション講演」に関わる事項」参照)。オーガナイザーが期限内に原稿を提出できるようなスケジュールで、企画セッション講演者に原稿を依頼してください。

(3) すべての講演に共通の事項

いずれの種類の講演についても、ご希望の方は、報告集用原稿とは別に、ウェブページに掲載する詳細論文を受け付けます(A4サイズ、最大10ページまで、PDF形式、ファイルサイズは1MB以内、フォント埋め込み)。論文ファイルをメールによりプログラム委員会宛

submission2014@jfssa.jp

にお送りください。報告集用原稿および詳細論文の執筆要領につきましては、連合大会ウェブページ(<http://www.jfssa.jp/taikai/2014/>)をご覧ください。

(4) その他

講演報告集は大会当日にお渡しします。

【注意】

報告集は、本大会ウェブページにて期間限定で公開予定です。公開を希望しない場合には、報告集用原稿の提出時に、その旨をご指示ください。

4. 企画セッションのご案内

学会や個人から申請のあった21件の企画セッションが予定されております。テーマとオーガナイザーのお名前、ご所属は以下の通りです。テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどにつきましては連合大会のウェブページをご覧ください。

なお、企画セッションの運営はオーガナイザーに一任しておりますので、企画セッションについてのご質問がございましたら、直接オーガナイザーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

ます。企画セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします。

企画セッション名とオーガナイザー(敬称略)

- (1) 日本分類学会シンポジウム：主成分分析の拡張と新展開 足立浩平(大阪大学)
- (2) 日本計量生物学会シンポジウム：メタアナリシスにおける最近の展開 手良向聡(金沢大学)・野間久史(統計数理研究所)
- (3) 日本計量生物学会 奨励賞受賞者講演 手良向聡(金沢大学)
- (4) 日本統計学会 各賞受賞者記念講演 鎌倉成稔(中央大学)
- (5) 応用統計学会シンポジウム：技術開発プロセスを加速させるための知の統合 竹内恵行(大阪大学)・渡辺美智子(慶應義塾大学)・椿広計(統計数理研究所)
- (6) 応用統計学会 学会賞受賞者講演 大西俊郎(九州大学)・黒木学(統計数理研究所)
- (7) ソフトウェアセッション
- (8) 高頻度従属データの推測理論 増田弘毅(九州大学)
- (9) スパース正則化による統計的推測 藤澤洋徳(統計数理研究所)
- (10) 法・裁判と統計 石黒真木夫(統計数理研究所名誉教授)
- (11) スポーツにおけるビッグデータの活用 酒折文武(中央大学)
- (12) スポーツ統計科学の方法論 竹内光悦(実践女子大学)
- (13) 金融リスク管理における統計的方法 塚原英敦(成城大学)
- (14) 計算機統計学による大規模医療・生態系データ解析 石橋雄一(スタットラボ)・石岡文生(岡山大学)
- (15) 統計科学と保険 小暮厚之(慶應義塾大学)・田中周二(日本大学)
- (16) GLSの理論的研究の魅力と実証的有効性 倉田博史(東京大学)
- (17) データ中心政策科学の実践と展開 北川源

四郎（情報・システム研究機構）・椿広計
（統計数理研究所）

(18) 公的統計におけるオープンデータ化の取組
坂下信之（統計センター）

(19) ビッデータ / オープンデータ利活用人材育
成に向けた統計教育の推進と質保証 藤井良
宜（宮崎大学）・竹内光悦（実践女子大学）・
渡辺美智子（慶應義塾大学）

(20) 統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）
の取り組み状況と今後 美添泰人（青山学院
大学）

(21) スポーツビジネスの計量分析：プレーヤー
とファンの相互作用を探る 水野誠（明治大
学）

5. チュートリアルセッションのご案内

下記の2つのテーマでチュートリアルセッションを開催します。2つの会場で並行して開催しますので、どちらかをお選びください。参加費については「7. 参加申し込みと大会参加費」をご覧ください。

日時：2014年9月13日（土）13：00～16：00

場所：東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟

テーマ1：公的統計の二次的利用－利用申請手続きを中心に

講演者：小林良行（元総務省統計研修所）・中村英昭（総務省）

時間：13：00～16：00（3時間）

開催趣旨：現行の統計法（平成21年4月に全面施行）では、行政機関等が作成する統計（公的統計）は社会の情報基盤であるとの認識の下、学術研究等での利用について一定の要件を満たすと認められる場合に、一般からの委託に応じて既存の調査票情報から新たな集計表を作成・提供（オーダーメイド集計）したり、匿名性を確保した調査票情報（匿名データ）を提供したり、調査票情報自体を提供したりする制度が定められている。

本チュートリアルの前半では、公的統計の二

次的利用とは何か、誰が利用できるのか、利用するにはどのような手続きが必要かといった点について概説するとともに、二次的利用の申請書類とその書き方についても例を交えて解説する。

また、後半では、我が国と対比しつつ、諸外国の政府統計機関が提供している様々な二次的利用形態の先進的な事例を紹介する。

テーマ2：マッチングと統計解析

講演者：岩崎学（成蹊大学）

時間：13：00～16：00（3時間）

開催趣旨：医学、疫学や経済学、社会学など様々な分野における群間比較では、比較の妥当性の担保や比較効率の向上などの目的で、マッチングが行なわれることが多い。特に、疫学におけるケース・コントロール研究では、欠かせない道具となっている。

本セミナーでは、統計的因果推論の立場から、マッチングに関わる様々な問題を最新の研究成果を交えながらなるべく平易に解説する。具体的には、マッチングの目指すもの、種々のマッチング法、マッチング結果の評価、得られたデータの解析法（独立な場合との比較）、種々の注意点などを取り上げる。近年、日本でも応用が広がっている傾向スコアマッチング（propensity-score matching）については、やや詳しく述べる予定である。

生物統計学、経済学、社会学などにおけるデータ解析に興味を持たれ、マッチングに対する知識の整理をしたい方々の参加をお待ちしています。

6. 市民講演会のご案内

下記の2つのテーマで市民講演会を開催いたします。参加費は無料です。

日時：2014年9月13日（土）16：30～18：00

場所：東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟地下1階第1教室

テーマ1：統計からみた保険の仕組み

講演者：杉田 健（三井住友信託銀行）

時間：16：30～17：15（45分）

概要：本講演では、リスクに対処するための効果的な仕組みである「保険」について、統計の観点から図を多く用いて解説します。

保険は不確実な事象に対処する手段として今や企業活動や日常生活に欠かせないものとなっています。例えば、2011年10月にタイで発生した洪水で、日本から進出している企業の工場は大きな被害を受けましたが、多くの損失が保険で補填されました。個人にとっても自動車事故・火災・疾病・死亡等に対する備えとして保険は多く活用されています。また年金は老後の安心のために欠かせないものとなっていますが、これは生存に対する、すなわち老後収入がなくして生活に困ることに対する保険といえます。

保険にとって統計は重要な役割を担っています。リスクに対する保険料について当初は粗い計算が行われていましたが、統計の活用により精密な計算ができるようになったからです。貢献が大きいのはハレー彗星で有名な英国の科学者エドモンド・ハレーです。ハレーは1693年の論文で、ハプスブルク帝国のプレスラウ（現在ではポーランド西部のヴロツワフ）の住民の死亡記録に基づいた死亡年齢の統計分析に基づき、終身年金保険購入者の年齢に応じた適切な年金の保険料（掛金）を算定しました。本講演では保険の仕組みを、統計との関係を踏まえて解説するものです。

テーマ2：漱石の目指した統計科学

講演者：椿 広計（統計数理研究所）

時間：17：15～18：00（45分）

概要：ロンドン留学時代夏目金之助は、一時同宿となる化学者池田菊苗（味の素の発明者）との一連の科学論議に大いに感化された。池田帰国後1901年9月、近代統計科学創生の書として著名な Karl Pearson の「科学の文法第2版」を購入する。これを批判的態度で一気に読み進

めるとともに大きな共感を覚える。この後、文学評論を統計科学とする10年計画を立て、科学の文法に即した態度、彼の言う「自己本位」の姿勢で英文学の研究を開始する。実際、夏目留学時の大学ノート、帰国後東京大学で行った講義「文学評論」、並びに文学論の序の草稿は、Pearson の影響を色濃く残している。本講演は、夏目の留学を遡る明治維新直前のロンドンの中学校での Pearson と菊池大麓（数学者、後に文部大臣）との出会いからスタートし、Pearson とその周辺が科学の文法を確立した活動、夏目が科学の文法に出会い、それに基づく文学評論研究を志向すると同時に、科学の文法を乗り越えようとした思い、更に漱石の研究に対する先人たちの評価までの範囲を叙述したい。また、夏目や弟子の寺田寅彦の残した言葉を通じて、Pearson が構想した統計科学がどのようなもので、どのような考え方として解釈されたかも紹介する。

7. 参加申し込みと大会参加費

当日受け付けの混雑を緩和するため、ウェブページからの事前申し込みにご協力ください。受け付け期間については「1. 大会日程、開催場所、各種受け付け期間」を参照してください。事前申し込みの場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費（報告集代を含む）

事前申し込み		当日受け付け
会員（共催6学会の会員）		
	7,000円	10,000円
学生（会員・非会員を問わず）		
	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	13,000円	17,000円

チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）

事前申し込み		当日受け付け
会員（共催6学会の会員）		
	3,000円	4,000円

学生（会員・非会員を問わず）	2,000円	4,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

懇親会参加費

	事前申し込み	当日受け付け
一般（会員・非会員を問わず）	5,000円	6,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	4,000円

【注意】

- (1) これまでの大会と同様に、事前申し込みのキャンセルと変更は認めません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料を後日送付いたします。

- (2) 講演申し込みをされた方も参加申し込みの手続きが必要です。
 (3) 市民講演会は無料です。
 (4) 共催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。

8. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。大会会場となります東京大学本郷キャンパスへは、地下鉄丸ノ内線の場合、本郷三丁目駅（東京駅から7分、池袋駅から9分）下車、徒歩約8分、都営地下鉄大江戸線の場合、本郷三丁目駅（新宿西口駅から14分、上野御徒町駅から2分）下車、徒歩約5分、です。

3. 第8回日本統計学会春季集会の報告

鎌倉稔成（日本統計学会理事長）

宿久 洋・足立浩平・村上秀俊（企画・行事担当理事）

標記の集会が2014年3月8日（土）に同志社大学今出川キャンパス（京都府上京区）で開催されました。今回の集会では、1つの特別セッション、4つの企画セッションとポスターセッションが企画され活発な議論が交わされました。午前の特別セッションは「統計教育の新たな潮流（オーガナイザー：美添泰人氏、青山学院大学）」というテーマで行われました。このセッションは、大学間連携共同教育推進事業「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」と共催の形で実施され、IASE会長のProf. Helen MacGillivray（Queensland University of Technology）の講演を含む4つの講演が行われました。ポスターセッションは昼休みをコアタイムとして開催され、大学院生ポスドクを中心に36件の発表が行われました。昨年の2.5倍の発表件数となり、コアタイムでは、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました。午後は2つのセッションを並行し

合計4つのセッションが実施されました。以下にオーガナイザーとセッション名を挙げます。照井伸彦氏（東北大学）「高次元経済経営データの統計モデリング」、水田正弘氏（北海道大学）「ビッグデータとその周辺」、瀬尾隆氏（東京理科大）「多重比較の理論と応用：最近の展開」、足立浩平氏（大阪大学）「行列分解による多変量データ解析」。

優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は石井晶氏（筑波大学）、金川元信氏（総合研究大学院大学）、小島睦月氏（東京大学）、佐野文哉氏（成蹊大学）、中津貴文氏（中央大学）、保科架風氏（中央大学）の五名に、学生優秀発表賞は池本大樹氏（大阪大学）、崔庭敏氏（京都大学）、林崇弘氏（総合研究大学院大学）の三名に授与され、懇親会において国友直人会長より表彰されました（氏名は五十音順）。

セッション終了後、同大学の室町キャンパス寒

梅館にて懇親会が開催され、セッションの議論の続きや会員相互の親睦・情報交換を行うことができました。なお、集会和懇親会の参加者はそれぞれ154名（169名）と70名（66名）でした（カッコ内は昨年度実績）。ポスター発表の授賞式が懇親会の席で行われることもあり、例年通り多くの学生の参加者がありました。

今回の春季集会は初めての関西での実施ということで、ポスターの発表数や参加人数など不安な面もありましたが、多くの発表者、参加者に恵ま

れ盛会のうちに終了することができました。最後になりましたが、本集會を成功裏に導いて下さった関係の方々に感謝を申し上げます。次年度の春季集會は明治大学中野キャンパスで開催予定です。春季集會では会員の皆様からのご提案をお待ちしています。

第8回日本統計学会春季集會 URL：

<http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/08/JSSspring2014.html>

4. 「Springer 出版計画」について

国友 直人（日本統計学会会長）

平成26年3月7日に開催された日本統計学会の臨時社員総会（同志社大学）において「Springer 出版計画」をご承認されたのでご連絡いたします。この計画は以下にご説明するような経緯で実施される予定ですが、今後少なくとも数年間を想定した計画になっています。今後、会員各位からのご提案を募りご協力を得たいと希望しています。なお以下でご説明していますように、会員各位からのご提案を歓迎しますが、各提案についてはSpringer編集委員会が審査いたしますので、そのまま採用されるとは限らないことにご注意いただければ幸いです。皆様方のご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

連絡先：日本統計学会事務局・出版委員会内・
Springer編集委員会

「Springer 出版計画」の経緯等

2014年3月7日 国友直人

1. 経緯

2013年9月にSpringer社（日本支社）より「Springer Briefs in Statistics」に日本統計学会シリーズ（JSS-Series）を刊行する提案があり、現会長は前会長とともに日本統計学会としての対応を検討しました。Springer委員会を日本統計学会・出版委員会の中の臨時委員会として2014年3月7

日の社員総会での説明を経て立ち上げました。

2. 出版形態

この出版計画は学術誌に掲載する論文などとは異なり「日本統計学会の名称を使う英語刊行物シリーズの1冊としての出版」であり、英文で1冊50項～125項程度の小冊子（講義録、1本の論文には収まらない小規模の書籍など）であり、2014年度より計画を開始する予定です。

Springer委員会により提案された著作案の内容を審査した後、原稿の扱いなど具体的な出版作業についてはSpringer社が行うことになります。Springer社は冊子体とe-Book体で公刊する予定ですが、後者に力を入れる模様です。世界的規模で展開している学術関係の出版社であるSpringer社はこうしたシリーズを既に2010年頃から開始しています。

この出版書籍の長所としては論文としてはページ数が多すぎる場合や講義録、あるいは既に日本語で出版（流通）しているそれほど大部でない書籍を英語へのほぼ翻訳なども想定できます。Springerの出版物として世界中の図書館・研究所に配信される予定なので影響力がありそうです。短所としては書籍に対する原稿料などはかなり少額であることが挙げられます。

3. Springer委員会

日本統計学会に設置されている出版委員会の中の臨時委員会として設置されました。委員会の責任者（2014年2月－2016年1月の予定）は国友直人（東京大学経済学研究科）、その他の委員として、北川源四郎（情報・システム研究機構）、樋口知之（統計数理研究所）、吉田朋広（東京大学数理学研究科）、竹村彰通（東京大学情報理工学研究科）、鎌倉稔成（中央大学理工学部）、松山裕（東京大学医学系研究科）が決定しています。今後にも委員の追加や交代はあります。

4. 出版の条件

原稿料はわずかですがe-Book形式で世界中の図書館・研究機関に配信される予定なので、かなりの影響力が期待できます。

5. 必要事項

日本統計学会員である出版希望者は学会事務局（あるいは編集委員）を通じて出版委員会・Springer編集委員会に書籍の提案内容（著者、タイトル、本全体のアブストラクト、可能なら目次など）を提出する必要があります。1次審査として編集委員会の審査を通過すれば、Springer社に著者情報をおくるので、その後の具体的な出版計画については出版社からの連絡がある予定です。

書籍の提案については、Springer社は一定の期間後にサンプルChapterの作成を求めることなどがありますが、詳細は未定です。Springer社との交渉はSpringer編集委員会が行うものとします。

5. 2013年統計検定の成績優秀者

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

2013年11月17日に第3回目の統計検定が6試験種目で行われました。以下に、各試験種目別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級（（ ）は選択した応用分野）

最優秀成績賞（S）：小島睦月（理工学）、安 一樹（理工学）

優秀成績賞（A）：宇野 慧（医薬生物学）、木村晃敏（理工学）、鷺見芳成（社会科学）、中村一紀（医薬生物学）

2級

最優秀成績賞（S）：岩崎一也、小川晋一郎、鹿野志津子、河田 大、神田 毅、島谷哲史、鷺見芳成、高田理浩、千葉瑛記、藤本貴司、松井洋平、三橋利晴、本井 晶、守谷昌久、社 和馬、山崎裕市、結城美保、吉田元気、依田朗裕、渡辺健司
優秀成績賞（A）：荒 敏昭、石丸洋人、井添慎

太郎、市村 勝、今井紀子、大木浩介、大澤隆之、太田修平、小川拓真、尾崎 隆、木田恒太、木村晃敏、久次米祐助、小林智之、小林真弘、斎藤隆明、須澤 淳、高橋悠一、竹下慶佑、中田満希、中田光治、長谷川 格、畑山優大、彦坂淳一、廣田健敏、船越公太、真鍋友則、村田裕志、安永大輔、山崎賢士、山田真裕、湯川祥行

3級

最優秀成績賞（S）：亀田裕之、北村 克、黄 曉莉、古結明男、小宮篤史、周藤 純、高木信乃、中田光治、三浦仁志、安松正敏、湯川祥行、

優秀成績賞（A）：青木利元、加藤直也、古堂昌利、戸田 満、原 啓、藤本祥和、松村幸治、松本大輔、松本年史、村井裕也、森 玲子、矢野正大、山口雄大、山下真梨

4級

最優秀成績賞（S）：加藤直也

優秀成績賞（A）：伊東直幸、金子直樹、田中孝、三浦仁志

統計調査士

最優秀成績賞（S）：田淵規之，野呂竜夫，細越雄二

優秀成績賞（A）：大山寛子，高取雄太郎，苫米地なつ帆，西川理津子，富士尾愛子，道広千絵，村木宏壽

専門統計調査士

最優秀成績賞（S）：太田 要，小石隆也，本村優希，山形成彦

優秀成績賞（A）：大山寛子，阪梨英樹，苫米地なつ帆，西澤瑞紀，道広千絵，村上智章，村木宏壽

6. 統計検定（2013年11月17日実施）合格者の声

国友 直人（日本統計学会会長）

今号と次号にわたり，2013年統計検定の合格者よりいただいた声を掲載します。

1級（理工学）合格

安 一樹さん（（株）リコー）

受けたきっかけから，ビジネス書籍で流行っていた“統計学が最強の学問である”を読み，物足りなかつたので，本格的に勉強しようと思いました。どうせなら資格でもないのかと検索したら見つかったので，何も考えず1級の受験を決意。その時点で残り3か月弱。数学は得意でしたが，統計については道具としてたまに使う程度で，本格的に勉強したことはありませんでした。3か月足らずで，仕事と両立して大学レベルの数学がマスターできるか不安でしたが，何とかできました。

続いて勉強方法。大学レベルの抽象的な数学が出てきますので，実務で必要という方以外は，数学が得意でないと厳しいと思います。公式参考書はエッセンスが浅く広く書かれていますので，そこまで数式は書いてありませんが，解答の裏には高度な数学が使われています。参考書は，1級公式参考書の他に，統計解析入門，確率統計演習，多変量解析入門等を使用しました。統計は考え方に慣れるまで非常に分かりにくいので，最初はざっと読み流し，2回目で熟読，それでも分からないところはノートにまとめて，何度も読み直しました。

最後に所感。ビッグデータ時代といわれ，最近だんだんと活用事例がでてくるようになりました。

データ分析において，これまではいかにして質の高いデータを取得するかがポイントでした。しかし，ビッグデータ時代はとにかく全てのデータを取得しますので，データの質ではなくその分析方法でいかに有益な情報を導きだすかがビジネスの成功の鍵になります。そこで，必要なのは，もちろん統計学です。さらに言えば，小手先の計算だけではなく，原理を理解し自分で応用して使いこなすレベルの統計学が必要です。その一つの指針としてこの統計検定1級は非常に役立つものだと考えています。まだ始まって間もない検定ですが，これからこの検定が，ビジネス界の一つの指針となれればと思っています。

2級合格

高田理浩さん（会社員）

温泉で統計検定に出会い，新たに電卓を買って，いざ受験！

統計検定との出会いの場所は，なんと温泉でした。2013年，福島県の飯坂温泉で開催された日本計量生物学会に参加した際，私は無料サンプルとして置かれていた統計検定の過去問に出会いました。最初は，無料だしなんだかお得そうという不純な動機で手に取ったのですが，温泉宿で眺めていると，問題を解いてみたいという衝動にかられ，その衝動が統計検定受験に結びつきました。

私は企業で一介の医療統計家として勤務しているので，目標は1級だったのですが，いきなり1級を受験する勇氣はわかず，とりあえず2級を受

験することにしました。統計検定2級対応統計学基礎の教科書を購入し、一通り目を通しました。数式の導出など、教科書に記載されていない行間の内容も自分なりにフォローしましたが、振り返ってみると2級を突破するのが目標であればそこまでする必要はなかったように思います。統計学基礎の教科書を逸脱する問題は原則出ていませんので、過去問の出題傾向を意識しながらこの教科書を読み込めば十分だと思います。

なお、2級は試験に関数電卓を持ち込むことができません。しかし、平方根の計算はできる電卓が欲しかったので、カラーデザイン電卓（ミニミニナイスサイズタイプ）を購入し、本番に備えました。

試験当日、受験会場に行ってみると、「日本にこんなにも統計家がいらっしゃるのか」と驚くほどの受験者数でした。試験自体は出題傾向が大きく変わることもなかったもので、落ち着いて受験できました。ランクSをいただくことができましたので、怯えることなく1級にチャレンジできそうです。

統計検定2級は大学基礎課程の内容、すなわち統計学の土台になる内容が試験範囲です。基礎的な部分で取りこぼしている内容がないか確認できるととても有意義な試験なので、受けようか迷っておられるのであれば、是非受験をおすすめいたします。

2級合格

小川晋一郎さん（株式会社ビズリーチ）

2年程前からデータ分析の仕事をしているものの全て独学での学習であり、統計についての基礎知識を一度きちんと確認しておきたいと思っていた所から、今回統計検定受験を決意しました。統計検定の存在自体は以前にfacebookで知人が合格した話をしていたため知っていました。

いざ勉強をはじめてみると、これまで実務でデータを扱ってきたとはいえ全ての知識が断片的だったので、意外と知らないことも多く、またなかなか一冊の教科書では理解しきれないところもあ

ったため、似たような教科書を複数買って読み比べながら理解を深めていきました。

加えて、元々なまけがちな性格だったため一人でやることに限界を感じ、会社内の近い人たちに統計検定受験のお誘いをして勉強会を開催し、自分がその講師をすることでモチベーションを上げました。みんな予習してこないの（笑）、自分がかかなり深く理解していないと分かりやすく伝えられないのと、自分が抜け落ちてた観点についての質問も出たりしてとてもよい学習方法だったと思います。やはり勉強時はアウトプットの場を強制的に作るのがとても大事なんじゃないかと思いました。

今後は機械学習等の、データをどうモデリングするか、といったスキルを深く学んで行きたいと思っています。検定も今後はその辺りまで踏み込んだものを作成して頂けると嬉しいです。

3級合格

松本大輔さん（早稲田大学文化構想学部2年）

統計検定の存在を知ったのは、大学生協でのことでした。置いてあったパンフレットを見て、統計検定なるものがあることを知りました。私は、大学に入学してから統計の勉強を始めました。そこで、大学で学んだ統計の手法と理論が確実に身に付いているかどうかを確かめるべく、統計検定を受験することにしました。

受験にあたり、公式参考書『データの分析』を購入し学習した他、過去の試験問題を解いて、試験への対策をとりました。特に、統計には付き物であるグラフの読み取りと計算は、慎重に行いました。

試験本番では、それまで練習してきたことを、絶対の自信を持って出し切ることができませんでした。そのため、グラフの読み取りや計算に慎重になりすぎてしまい、時間が無くなってしまいました。辛うじて全問に答えはしましたが、最後のページは、問題を読んで数秒で選択肢を選んだ覚えがあります。そういった状況でしたから、当然受かった手ごたえなどありませんでした。

ところが、合否発表が届くと、合格していました。さらに、驚くべきことに、優秀者表彰までいただくことができました。信じられない気持ちでいっぱいになりました。本当に嬉しかったです。

2014年度からは試験が年2回に増えたということで、拡大されたチャンスを大いに活かして、2級、1級、そして、行く行くは専門統計調査士を目指して励みたいです。

統計調査士、専門統計調査士合格

大山寛子さん（一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会）

事務職の私が、「統計調査士」と「専門統計調査士」に合格することができました。私自身の業務は団体事務ですので、リサーチ業務（調査）を行うことはありませんが、弊協会（日本マーケティング・リサーチ協会 以下 JMRA）の会員社・者が多くこの検定を受験していましたので、職場内の勧めもあり、業界理解のためにという気持ちで挑みました。

受験対策は、「過去問を解きながら、解説を読み、分からないところを調べる」ことに終始しました。勉強時間は、「統計調査士」と「専門統計調査士」をあわせて20時間強と決して多くはありませんでしたが、それでも合格できたのは、業務

の中で JMRA の『マーケティング・リサーチ綱領』や各種ガイドライン、『MR 法務ハンドブックⅢ』や JMRA の各種セミナーに触れていたおかげだと思います。

特に「専門統計調査士」の問題は、「記憶力」で解くというよりも、調査の原理・原則に照らしあわせて「考える」問題が多かったように思いますが、逆にいえば、調査の原理・原則が分かっていたら、自然と答えが導きだせるものです。その調査の原理・原則は、まさに前述の JMRA の資料等に記されているリサーチ業務の考え方であると感じました。「調査とは何か」「調査において何に気をつけないといけないか」「どのような手順が必要か」などは、JMRA の様々な資料に記されています。

今回の受験を通じて、「JMRA にはリサーチの貴重な知恵が結集している」ことをあらためて感じました。（リサーチ業界を構成する会員の共同作業の賜物だと思います。）個人的なお勧めの勉強方法は、『マーケティング・リサーチ用語辞典』や『マーケティング・リサーチ綱領』、『マーケティング・リサーチ実施のための品質管理基準』、『MR 法務ハンドブックⅢ』を横に置きながら、過去問をじっくり解くことです。この検定だけでなく、様々な実務の局面に役立つと思います。

7. 第2回通常理事会・委員会報告

第2回通常理事会

日時：2014年2月8日（土） 12：00～13：00

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

理事の総数	12名	出席理事の数	12名
監事の総数	2名	出席監事の数	2名

出席者：

理事：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、西郷浩（庶務）、三分一史和（庶務）、大野忠士（会計）、西山陽一（会誌編集・欧文）、谷崎久志（会誌編集・和文）、竹内恵行（広報）、勝浦正樹（大

会）、渡辺美智子（検定）、宿久洋（企画・行事）、中野純司（国際）（以上12名、カッコ内は役割分担）

監事：竹村彰通、矢島美寛

＜第1議案＞ 常設委員会に関する件

鎌倉理事長より、以下の常設委員会の新設を臨時社員総会に諮る旨の提案があり承認された。会名は国際関係委員会とし、海外学会との連携等を会務とする。委員長は理事の1名になる。

＜第2議案＞ 臨時委員会の委員交代の件

鎌倉理事長より、質保証委員会、基準委員会、出版企画委員会、産学連携推進委員会の各臨時委員会の委員を次のように定める（再任）旨の提案があり、承認された。

- ・質保証委員会（任期2014.1.1～2014.12.31）：
竹村彰通（委員長）、岩崎学（副委員長）、今泉忠、田村義保、舟岡史雄、渡辺美智子、山本拓、伊藤彰彦、田栗正章
- ・基準委員会（任期2014.1.1～2014.12.31）：
田栗正章（委員長）、今泉忠、岩崎学、岡太彬訓、折笠秀樹、竹村彰通、田村義保、椿広計、西村圭一、林篤裕、水田正弘、山口和範、渡辺美智子、美添泰人、藤井良宜
- ・出版企画委員会
（任期2014.1.1～2014.12.31）：
鎌倉稔成（委員長）、岩崎学、国友直人、西郷浩、竹村彰通、田中豊、矢島美寛
- ・産学連携推進委員会
（任期2014.1.1～2014.12.31）：
椿広計（委員長）、大野忠士、鎌倉稔成、鈴木督久、西井龍映、舟岡史雄、安川武彦

＜第3議案＞ 2014年度事業計画について

鎌倉理事長より、資料に基づき、2014年度事業計画について提案があり、一部修正の上承認された。

＜第4議案＞ 2014年度予算について

鎌倉理事長より、資料に基づき、2014年度予算について提案があり、大野会計担当理事による補足説明の後に協議し、承認された。

＜第5議案＞ 会員の入退会

西郷庶務担当理事より提示された回覧資料に基づき、内容を承認した。

委員会

日時：2014年2月8日（土） 13：00～14：00

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス

会議室

出席者：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、西郷浩、三分一史和、大野忠士、西山陽一、谷崎久志、竹内恵行、勝浦正樹、渡辺美智子、宿久洋、中野純司

＜報告事項＞

1. 欧文誌委員会

西山委員長より Vol.43, No.2（2013年12月発行予定）がもうすぐ発行されることが報告された。

2. 和文誌委員会

谷崎委員長より、第43巻2号（2014年3月発行予定）の進捗状況などについて報告があった。

3. 大会委員会

勝浦委員長より、資料に基づき、2014年度統計関連学会連合大会のプログラム委員会と運営委員会の決定事項などについて報告があった。

4. 企画・行事委員会

宿久委員長より第8回日本統計学会春季集会について準備状況の報告がなされた。開催に当たって、ポスター発表者の旅費補助の状況、懇親会の申し込み状況の報告があった。

5. 庶務委員会

西郷委員長より、研究部会の応募がなかったことが報告された。

6. 広報委員会

竹内委員長より、会報158号を発行したこと、校正漏れが2件あり、次号で修正記事を出すこと、PDF版は修正済みであることが報告された。

7. 表彰委員会

国友委員長より、会長が推薦する選考委員として山本拓氏と渡辺美智子氏を推薦することが報告された。

8. その他

中野理事（国際担当）から韓国統計学会、中華民国（台湾）確率統計学会との交流協定締結に向けての準備状況、ロシア統計学会との学術交流についての説明があった。

<審議事項>

1. 欧文誌委員会

西山委員長より国立情報学研究所電子図書館コンテンツ作成となる学術雑誌名及びその範囲並びにそれにかかわる利用者への提供条件の申し合わせの締結は平成21年度までと同じ内容で締結する提案があり了承された。

2. 和文誌委員会

審議事項なし。

3. 大会委員会

審議事項なし。

4. 企画・行事委員会

審議事項なし。

5. 庶務委員会

審議事項なし。

6. 広報委員会

竹内委員長より、会報発行日を発行月の30日に変更し、2014年度4月から適用することについて提案があり了承された。学会メーリングリストの運用規定について次回理事会で審議する提案があり、了承された。

7. その他

審議事項なし。

8. 臨時社員総会報告

日時：2014年3月7日（金）18：30－20：00

場所：同志社大学室町キャンパス寒梅館6階大会議室

出席者：国友直人会長、代議員：鎌倉稔成、青嶋誠、岩崎学、大森裕浩、西郷浩、佐藤美佳、神保雅一、竹内光悦、竹村彰通、田村義保、西井龍映、舟岡史雄、村上征勝、矢島美寛、美添泰人、若木宏文（以上17名、委任状提出7通、議決権行使書9通）（オブザーバー：三分一史和、大野忠士、西山陽一、竹内恵行、宿久洋）

冒頭、国友会長より定足数確認後、開会宣言がなされ、オブザーバー5名の出席が承認された。また、国友会長より議事録署名人として岩崎学、田村義保、両代議員が提案され、承認された。

審議事項

<第1議案> 日本統計学会委員会規程の変更

（常設委員会の新設）、臨時委員会運用規則の制定に関する件一定款細則第6条3

国友会長から、資料に基づき、国際関係委員会の新設とそれに伴う委員会規程の変更、ならびに、出版企画委員会運用規則と産学連携推進委員会運用規則の制定について提案があり、承認された。

<第2議案> 研究分科会継続に関する件－研究分科会規程第4条

国友会長から、資料に基づき、「金融の計量リスク管理分科会」（主査：三浦良造氏、2013年8月終了）を、主査を塚原英敦氏に交代して継続することが提案され、承認された。

<第3議案> 研究分科会主査交代に関する件－研究分科会規程第3条2

国友会長から、「統計教育分科会」（主査：竹内光悦氏）の主査を藤井良宜氏に交代、「計量経済・

計量ファイナンス分科会」(主査：永井圭二氏)を西山慶彦氏に交代することが提案され、承認された。

＜第4議案＞ 学会賞各賞の選考委員に関する件 ー学会賞各賞規程「選考方法」

国友会長より、推薦する選考委員として山本拓氏および渡辺美智子氏を推薦することの提案があり、承認された。

報告事項(理事会報告)

1. 2014年度事業計画

鎌倉理事長より、資料に基づき、2014年度事業計画について報告があった。

2. 2014年度予算

鎌倉理事長より、資料に基づき、2014年度予算について報告があった。

3. 会員の入退会

鎌倉理事長より、回覧資料に基づき、会員の入退会について報告があった。

4. その他

なし。

報告事項(委員会報告)

1. 常設委員会の委員長および委員の交代および追加について

鎌倉理事長より、資料に基づき、常設委員会(会誌編集、大会、広報、企画行事、庶務)の委員の交代について報告があった。

2. 2014年連合大会について

鎌倉理事長より、2014年連合大会について報告があった。

3. 2014年春季集会について

鎌倉理事長より、2014年春季大会についての紹介があった。

4. 日本統計学会各賞について

鎌倉理事長より、日本統計学会各賞の推薦締切りが2014年4月5日であるとの報告があった。

5. その他

なし。

報告事項(その他)

1. 学会活動特別委員会

報告事項なし(竹村委員長)。

2. 学会組織特別委員会

報告事項なし(田村委員長)。

3. 統計教育委員会

竹内委員長から、資料に基づき、2013年度活動報告、ならびに2014年度の活動計画が示された。

4. スポーツ統計分科会(2009年6月発足、 2013年6月継続、主査：田村義保)

田村代議員(主査)より、2013年度活動報告が示された。

5. 金融の計量リスク管理分科会(2009年9月 発足、2013年8月終了、主査：三浦良造)

三浦主査より、書面にて、2013年度活動報告が示された。

6. 次回日程等

鎌倉理事長より、2014年度定時社員総会を2014年6月21日(土)13:30より中央大学後楽園キャンパス6号館7階6701会議室にて開催する予定であるとの報告があった。

7. その他

なし。

2014 年度事業計画

(2014. 4. 1～2015. 3. 31)

I. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行
欧文誌 2 号 [Vol. 44 No. 1 (6 月), No. 2 (12 月)] を発行する。
2. 和文誌の発行
和文誌 2 号 [第 44 巻シリーズ] 第 1 号 (9 月), 第 2 号 (3 月)] を発行する。
3. 会報の発行
No. 159 (4 月), No. 160 (7 月), No. 161 (10 月), No. 162 (1 月) を発行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 82 回大会の開催
2014 年 9 月 13 日～16 日の 4 日間にわたり、東京大学本郷キャンパスにおいて開催する。
統計関連学会連合大会の一環として開催する。
2. 春季集会の開催
2015 年 3 月上旬に第 9 回春季集会を開催する。
3. 研究部会の活動
2015 年度より活動を開始する部会を募集する。
4. 研究分科会の活動
現在、活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査：2009 年 6 月発足, 2015 年 5 月終了予定)
「金融の計量リスク管理分科会」(三浦良造主査：2009 年 9 月発足, 2013 年 8 月終了、継続予定)
「ベイズ分析研究分科会」(繁榎算男主査：2010 年 11 月発足, 2014 年 10 月終了予定)
「統計教育分科会」(竹内光悦主査[藤井良宜次期主査に交代予定]：2010 年 12 月発足, 2014 年 11 月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(永井圭二主査：2010 年 12 月発足, 2014 年 11 月終了予定)

5. 「統計検定」の実施

日本統計学会が主体となり、(財) 統計研究会および (財) 統計情報研究開発センターとの共催事業として「統計検定」を実施する。

6. 統計関連学会連合の事業推進に協力する。
7. 国際学会、国際シンポジウム等に協力する。
8. 会員に有益と思われる学会やシンポジウム等を後援する。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を会員等に授与する。

- 第 19 回日本統計学会賞
- 第 10 回日本統計学会統計活動賞
- 第 10 回日本統計学会統計教育賞
- 第 8 回日本統計学会研究業績賞
- 第 7 回日本統計学会出版賞
- 第 28 回日本統計学会小川研究奨励賞

2. 各種委員会の活動

- 年 2 回社員総会を開催する。
- 年 4 回理事会を開催する。
- 年 1 回役員協議会を開催する。
- その他の各種委員会を適宜、開催する。

3. 広報活動の充実

メール・グリスの使用やホームページの充実により、各種情報発信を促進する。
英文のホームページを充実させる。

4. 入会者の拡大

春季集会等の機会を利用し、若手の研究者の拡大を促進する。
統計検定の合格者を対象とし、統計利用者の拡大を促進する。
准会員（仮称）について検討する。

IV. その他

1. 2015-2016 年度代議員、会長、理事長選挙を実施する。
2. Springer 社出版計画を開始する。

一般社団法人 日本統計学会 2014年度 予算書

(2014年2月8日)
(単位 千円)

	14年度予算	13年度予算	12年度予算	備考
I. 事業活動収支の部	▲ 824	▲ 5,349	▲ 187	
一般勘定	26	1	163	
60周年記念基金	▲ 600	▲ 350	▲ 350	出版賞・小川賞以外の副賞、学会活動補助
75周年記念基金	▲ 50	-	-	出版賞副賞
小川基金会	▲ 200	-	-	小川基金会は2014年度より予算化
ISI基金	0	▲ 5,000	-	ISI基金は2013年度より管理(実際には2013年度使用せず)
ICP基金	0	0	-	ICP基金は2013年度より管理
学会活動積立金	0	0	0	
1. 事業活動収入	13,590	13,935	14,235	
会費収入	10,400	10,900	10,900	
名誉会員・正会員	9,600	10,000	10,000	
学生会員	200	200	200	
遡及請求分	600	700	700	
賛助法人費	1,000	890	890	
団体会員費	280	240	240	
科学研究費補助金	500	500	800	
雑収入	1,410	1,405	1,405	
会誌購読料	700	700	700	
利子収入	10	5	5	
広告収入	700	700	700	
その他	0	0	0	
経済学会連合会補助金	0	0	0	
2. 事業活動支出	14,414	19,284	14,422	
印刷費	7,650	7,670	7,650	
会誌(44巻1,2号、44-No.1,2)	6,300	6,300	6,300	
会報(159-162号)	750	750	750	
名簿印刷費	0	20	0	
その他	600	600	600	会誌・会報の封筒作成、大会冊子等
大会開催費	1,250	900	900	
春季集会開催費	600	600	600	
各賞運営経費	500	300	300	懇親会招待、表彰状、副賞(小川基金会、60周年記念基金充当)
出版賞費	50	0	0	75周年記念基金充当
その他	100	0	0	賛助会員参加費補助
研究部会費	300	300	300	
研究分科会費	100	100	100	
学会運営会費	230	230	230	
代議員会(社員総会)	70	70	70	
特別委員会	20	20	20	
統計教育委員会	20	20	20	
会誌編集委員会	20	20	20	
理事会	100	100	100	
事務費	280	340	340	
一般事務人件費	20	20	20	
校正編集事務人件費	100	170	170	
発送事務人件費	90	80	80	
事務用品	40	40	40	
事務室借料	0	0	0	
その他	30	30	30	事務員の交通費等
学会事務業務委託費	2,592	2,592	2,340	
通信・郵送料	1,450	1,560	1,550	
会誌送料	600	700	700	
会報送料	450	450	450	
名簿送料	0	10	0	
その他通信・郵送料	400	400	400	
役員旅費補助	120	150	200	
各種分担金	150	150	150	
日本経済学会連合	35	35	35	
国際統計協会ISI	25	25	25	
横幹連合	50	50	50	
統計関連学会連合	40	40	40	
ネットワーク維持費	42	42	12	ドメイン使用料、学会サーバー委託費、Web名簿維持費
国際交流促進費	250	250	350	海外よりの招聘
名簿作成積立金	0	0	300	
統計検定関係費	0	0	0	
租税公課	0	0	0	
世界統計会議 (ISI) 派遣補助	0	5,000	-	ISI基金目的使用
II. 投資活動収支の部	0	0	0	
投資活動収入	0	0	0	
投資活動支出	0	0	0	
III. 予備費	3,000	3,000	3,000	

今期予算より特定資産勘定の収支を追加表示

9. 修士論文・博士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 の順に記載いたします。(敬称略)

修士論文

- (1) 藤村晃洋 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Incomplete polynomial diagonals-parameter symmetry model for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 阿内遼平 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On decomposition of improved estimator of measure for symmetry in square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 明永駿佑 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measure of departure from symmetry based on entropy for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 天野寛之 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Extended marginal homogeneity model for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 江原崇 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Proposal for improvement of approximate unbiased estimator of the log odds ratio (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 大浜幹希 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Decompositions of symmetry using generalized linear diagonals-parameter symmetry model and orthogonality for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 小田剛士 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A modified palindromic symmetry model and decomposition of symmetry for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 小出陽平 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Correlation between two types of scales to measure the distance from the symmetry (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 三枝祐輔 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) An extended asymmetry model and decompositions of symmetry for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 島田文香 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measure of departure from symmetry for the analysis of collapsed square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 田中弥生 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Sum-symmetry model and its orthogonal decomposition for square contingency tables having ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 中本将司 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Decomposition of diamond model for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 本田哲彬 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measure of departure from point-symmetry for two-way contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 前田峻志 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Wald test statistic of generalized marginal homogeneity model for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 汐留直樹 (2) 修士 (工学) (3) 熊本大学 (4) 最良正規母集団の選択問題 (5) 高田佳和 (6) 平成26年3月

- (1) 末永聡史 (2) 修士 (工学) (3) 大分大学
(4) 2段階ケースコントロール研究へ Multiple Imputation 法を応用した場合のパラメータ推定と検出力に関する研究 (5) 和泉志津恵 (6) 平成26年3月
- (1) 松山耕大 (2) 修士 (工学) (3) 大分大学
(4) AntScan 法におけるウィンドウの形成に関する研究 (5) 和泉志津恵 (6) 平成26年3月
- (1) 薬師寺亨介 (2) 修士 (工学) (3) 大分大学
(4) 打ち切りを含む生存時間データにおけるワイブル・ガンマモデルを用いたパラメータ推定に関する研究 (5) 和泉志津恵 (6) 平成26年3月
- (1) 上玉利瑛太 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学
(4) ガンマ分布の形状母数の推定量の2次漸近許容性について (5) 栗木進二 (主査), 田中秀和 (指導教員) (6) 平成26年3月
- (1) 富田峻也 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学
(4) 巡回的な nearly uniform strongly balanced design の構成法 (5) 栗木進二 (6) 平成26年3月
- (1) 鳥居武司 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学
(4) 分割型ユニットをもつ nested row-column design の構成法 (5) 栗木進二 (6) 平成26年3月
- (1) 堀畑雄一 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学
(4) ベイジアン極値統計学におけるモデル評価基準 (5) 栗木進二 (主査), 川野秀一 (指導教員) (6) 平成26年3月
- (1) 村越雅司 (2) 修士 (経済学) (3) 学習院大学
(4) 同時方程式トロービットモデルを用いた為替介入効果の検証 (5) 赤司健太郎 (6) 平成26年3月31日
- (1) 石井 晶 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学
(4) Asymptotic Distribution of the Largest Eigenvalue and Its Applications in High Dimension, Low Sample Size Context (5) 青嶋 誠 (6) 平成26年3月
- (1) 田代 浩 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学
(4) Robust Estimation for High-Dimensional Contaminated Models (5) 青嶋 誠 (6) 平成26年3月
- (1) 朴海香 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学
(4) Realized Cholesky Stochastic Volatility Model (5) 大森裕浩 (6) 平成26年3月
- (1) 佐野文哉 (2) 修士 (理工学) (3) 成蹊大学
(4) 見かけ上の non-complier が存在する場合の平均因果効果の統計的推測 (5) 岩崎 学 (6) 平成26年3月
- (1) 荒切彰太 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学
(4) カーネル主成分分析を用いた判別分析の研究 (5) 松田真一 (指導教員), 木村美善 (主査) (6) 平成26年2月
- (1) 藤井裕之 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学
(4) データ構造を拡張した SN 比の分布に関する研究 (5) 松田真一 (指導教員), 木村美善 (主査) (6) 平成26年2月
- (1) 日比野真之 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学
(4) テューキー・クレーマー法の中点の評価に関する研究 (5) 松田真一 (指導教員), 木村美善 (主査) (6) 平成26年2月
- (1) 奥村和也 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学
(4) 応答曲面の観点からみた最適計画の比較 (5) 松田真一 (指導教員), 木村美善 (主査) (6) 平成26年2月
- (1) 坂巻翔太 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学
(4) 引き分けを考慮した Bradley-Terry モデルの適用法の研究 (5) 松田真一 (指導教員), 木村美善 (主査) (6) 平成26年2月
- (1) 塚原一翔 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学
(4) τ 推定量に基づくロバスト・リッジ回帰の研究 (5) 木村美善 (指導教員), 松田真一 (主査) (6) 平成26年2月
- (1) 山元一輝 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学
(4) 汚れのあるデータのもとでの統計的検定 (5) 木村美善 (指導教員), 松田真一 (主査) (6) 2014年2月
- (1) 阿部雄平 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学
(4) Cramér-Lundberg モデルにおける破産確率の計算 (5) 清水邦夫 (6) 平成26年3月

- (1) 木口 亮 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 2重周期スプライン平滑法と南極昭和基地のCO2濃度の解析 (5) 南 美穂子 (6) 平成26年3月
- (1) 熊坂秋彦 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 神経細胞間のGranger Causalityの推定 (5) 柴田里程 (6) 平成26年3月
- (1) 近藤立志 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 傾向スコアを用いた因果効果のセミパラメトリック推定 (5) 南 美穂子 (6) 平成26年3月
- (1) 菅又裕介 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 古典的破産理論における破産確率の研究 (5) 清水邦夫 (6) 平成26年3月
- (1) 済川尚孝 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) 海底物理環境変量を説明変量としたZero-inflated Poisson モデルによるある魚類の捕獲数データの解析 (5) 柴田里程 (6) 平成26年3月
- (1) 瀬戸口武研 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) Dual TextilePlot (5) 柴田里程 (6) 平成26年3月
- (1) 竹本 昂 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 関係形式テーブル間に存在する関係記述の一般化とDandD インスタンス継承の実装 (5) 柴田里程 (6) 平成26年3月
- (1) 黄金早紀 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 部分空間法によるパターン認識と最適圧縮次元 (5) 小西貞則 (6) 平成26年3月24日
- (1) 佐々木ひかり (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) L1正則化法によるスパース主成分分析 (5) 小西貞則 (6) 平成26年3月24日
- (1) 田嶋杏菜 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 線形・非線形統計解析による識別・判別法の構成 (5) 小西貞則 (6) 平成26年3月24日
- (1) 堀田 拓 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 非線形Cox 回帰モデルの正則化推定と一般化情報量規準によるモデル評価 (5) 小西貞則 (6) 平成26年3月24日
- (1) 宮本真帆 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) カーネル法に基づく非線形多変量解析 (5) 小西貞則, 酒折文武 (6) 平成26年3月24日
- (1) 班 爛 (Ban Lan) (2) 修士 (経済学) (3) 名古屋市立大学 (4) Valuation of Hong Kong REIT based on Risk Sensitive Value Measure Method (5) 三澤哲也 (6) 平成26年3月
- (1) 早川純平 (2) 修士 (情報理工学) (3) 東京大学 (4) 多項式指数型分布に対するホロノミック勾配法を用いた最尤推定法 (5) 竹村彰通 (6) 平成26年3月
- (1) 下田平大海 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 多変量確率的ボラティリティモデルのMCMCによる推定 (5) 森本孝之 (6) 平成26年3月
- (1) 江里口剛喜 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) Testing and estimating the common non-risk ratio throughout multiple 2 x 2 tables generated by negative binomial samplings (5) 柳川 堯 (6) 平成26年3月31日
- (1) 古賀千代美 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 誤嚥性肺炎予防における口腔スコアの統計学的考察 (5) 角間辰之 (6) 平成26年3月31日
- (1) 小向 翔 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 年齢調整ネット生存率に対する推定量の比較 (5) 服部 聡 (6) 平成26年3月31日
- (1) 坂口真由香 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) Reduced rank regressionにより抽出された食事パターンの一般化可能性に関する研究 (5) 米本孝二 (6) 平成26年3月31日
- (1) 田村ルミ (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) シヤント閉塞・狭窄に関する要因についての研究 (5) 角間辰之 (6) 平成26年3月31日
- (1) 中下 啓 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 血清中インスリン濃度に基づくグルコース注入速度予測のための統計学的検討 (5) 荒木由布子 (6) 平成26年3月31日
- (1) 宮本直樹 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 血液培養検査で検出された主要雑菌

種の検出回数と持続時間に関する研究 (5) 柳川 堯 (6) 平成26年3月31日

- (1) 清水優祐 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Sparse-Bridge 推定におけるモーメント収束 (5) 増田弘毅 (6) 平成26年3月
- (1) 山崎智彦 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) T 分布による一般化線形モデルの評価と太陽活動への応用 (5) 西井龍映 (6) 平成26年3月
- (1) 内 大介 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 超高次元画像のベイズモデルによるカテゴリ比率の推定 (5) 西井龍映 (6) 平成26年3月
- (1) 魯 夢欣 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 符合検定とその有意確率の近似 (5) 前園宜彦 (6) 平成26年3月
- (1) 小川裕一郎 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A Cut-off Point for Diagonal Discriminant Rule in High Dimension (5) 瀬尾 隆 (6) 平成26年3月
- (1) 桐原 顯 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Test of Mean Structure for High Dimensional Data from Non-normal Population (5) 瀬尾 隆 (6) 平成26年3月
- (1) 脇村真隆 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Multivariate Skewness and Kurtosis in Block-diagonal Covariance Structure by Using Cluster Analysis (5) 瀬尾 隆 (6) 平成26年3月
- (1) 渡邊弘己 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A Determination of Cut-off Point for Euclidean Distance Discriminant Rule in High-dimensional Data (5) 瀬尾 隆 (6) 平成26年3月

博士論文

- (1) 作村建紀 (2) 博士 (情報工学) (3) 九州工業大学 (4) ユーザー・アイテムの応答から構成された確率構造を持つ不完全マトリクスからのユーザーとアイテムの評価法 (5) 廣瀬英

雄 (6) 平成26年3月

- (1) 倉上弘幸 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On decompositions of symmetry for ordinal contingency tables (5) 富澤貞男 (6) 平成26年3月
- (1) 東郷香苗 (2) 博士 (理工学) (3) 成蹊大学 (4) Adaptive Design and Statistical Inference in Clinical Trials (5) 岩崎 学 (6) 平成26年3月
- (1) 藤木康久 (2) 博士 (学術) (3) 総合研究大学院大学 (4) ラット脊髄断面における解剖学的標準化手法の開発と局所麻酔薬の薬理作用の統計的評価 (5) 三分一史和 (6) 平成26年3月
- (1) 朝倉こう子 (2) 博士 (医学) (3) 大阪大学 (4) Sample size determination in group-sequential clinical trials with two co-primary endpoints (5) 濱崎俊光 (6) 平成26年3月
- (1) 井本智明 (2) 博士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) Extensions of Binomial and Negative Binomial Distributions (5) 清水邦夫 (6) 平成26年2月
- (1) Didit Budi Nugroho (2) 博士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) Extension of Realized Stochastic Volatility Model Using Generalized Student's t-Error Distributions and Power Transformations (5) 森本孝之 (6) 平成26年3月
- (1) 加藤 舞 (2) 博士 (医学バイオ統計学) (3) 久留米大学 (4) Estimation of amino acid requirement adjusting for carry-over effect based on approximate change-point regression model (5) 服部 聡 (6) 平成26年2月26日
- (1) 山下拓人 (2) 博士 (医学バイオ統計学) (3) 久留米大学 (4) An alternative to the Satterswaite-Welch degrees of freedom and its computer intensive confidence intervals (5) 柳川 堯 (6) 平成26年3月31日
- (1) 井上 寛 (2) 博士 (機能数理学) (3) 九州大学 (4) New sufficient conditions for recovery in compressed sensing (5) 二宮嘉行 (6) 平成26年3月

10. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・岩崎 学（監修）／こどもくらぶ（編），『表とグラフの達人講座 はじめて出合う統計の本』，同友館，2014年 2 月，2,800円＋税，ISBN：978-

4-496-05039-8

内容紹介：学習指導要領が改定され，初等中等教育に統計の内容が多く盛り込まれるようになった。本書は，小中学校の早い段階から身に付けるべき統計リテラシーとして，公的統計の利用法や統計グラフの書き方を解説している。

11. 公募情報

関西学院大学理工学部 数理科学科 教員公募

1. 所属：理工学部数理科学科
2. 職種：教授または准教授または専任講師 1 名
3. 専門分野：確率論，数理統計学
4. 応募資格：
 - （1）博士の学位を有すること。
 - （2）専門分野の研究はもちろん，数学の教育に熱意をもち，理工学部の数学基礎科目および学部，大学院での専門分野の科目を担当できる方。数理科学科での卒業研究の指導，大学院前期課程および後期課程の研究指導ができる方。
5. 募集期間：2014年 5 月19日（月）必着
6. 着任時期：2015年 4 月 1 日
7. 提出書類：

- （1）履歴書（写真貼付）
- （2）研究業績リスト
- （3）主要論文の別刷またはコピー（5 編以内）
- （4）これまでの研究内容およびこれからの研究計画（1500字程度）
- （5）学部および大学院における教育についての実績と抱負（1000字程度）
- （6）科研費等の取得状況
- （7）応募者の業績についての照会先 2 名の氏名と連絡

8. 書類提出先：

〒669-1337 兵庫県三田市学園 2 丁目 1 番地

関西学院大学理工学部長 加藤 知

（封筒に「数理科学科人事応募書類在中」と必ず朱書の上，簡易書留で郵送して下さい。）

12. 会報 No.158における誤植のお詫びと訂正

広報委員長 竹内 恵行（大阪大学）

2014年 1 月25日付発行の日本統計学会会報 No.158において誤植があることが発送後に判明いたしました。関係される方々にご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに，以下のように訂正いたします。

訂正箇所

- ・ 1 ページ目次
 - （誤）吉竹 透 （正）吉武 透
- ・ 11ページ表題
 - （誤）8. 国勢調査の匿名データの提供開始
 - （正）8. 国勢調査の匿名データの提供開始

なお、ホームページで公開しておりますPDF版につきましては、該当箇所を既に訂正しており

ます。

13. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2014年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

(公財)統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表

し、御冥福をお祈り申し上げます。

山本 昭一 会員

入会承認

石井康晴, 坂田大輔, 鈴木秀男, 中原啓智, 船渡川伊久子, 矢作朋宏 (敬称略)

退会承認

稲葉弘道, 上坂浩之, 牛渡愛, 尾高好政, 川瀬雅也, 齋藤貴幸, 逆瀬川浩孝, 橋本泰明, 長谷川政美, 林周二, 松野一彦 (敬称略)

現在の会員数 (2014年2月8日)

名誉会員	17名
正会員	1,399名
学生会員	54名
総計	1,470名
賛助会員	17法人
団体会員	7団体

14. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

・来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

・博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年

月 をお知らせください。

・求人案内 (教員公募など)

・研究集会案内

・新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致し

ます。

原稿送付先：

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-7

大阪大学大学院経済学研究科

竹内 恵行 宛

E-mail：koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp